

がん検診

がんはこうして見つける

予防キャンペーン
がん 予防・検診
受診率の向上をめざして

2005シンポジウム

討論会



(財)大阪がん予防検診センター副所長

山崎 秀男



摂津市保健福祉部 参事兼健康推進課長

福永富美子



大阪府立成人病センター 調査部疫学課参事 医師

中山 富雄



(社)大阪エイフボランティアネットワーク会長

上ノ山 幸子

シンポジスト

がんは遺伝子についた傷が積み重なって起こります。そのため年を取ればがんになる率が高くなるのは仕方のないことです。昨年はがんにならないような生活習慣を身に付けるためのシンポジウム「がんを予防する食生活の知恵」を開催しました。本年はがんが死なないように早期発見のための討論会「がん予防・検診受診率の向上をめざして」を企画しました。それぞれご専門の先生方から有益なお話を伺えることと期待しています。

コーディネーター がんは早く見つけば治しやすい病気ですが、進行するとこれほど厄介な病気はないと言われています。それにもかかわらず、大阪府のがん検診受診率は非常に悪く、

全国的にみて最下位グループに属しています。私も、なんとか受診率を向上させ、最下位グループから脱し、がんで亡くなる方を少なくしたいと考えていますが、何が受診率向上の妨げとなっていると考えられるのでしょうか？

検診結果をこわがらないで

上ノ山 府民にとっては、がん検診の必要性を感じながら、どこかで検診結果に対する恐怖が大きく、受診を敬遠するということを受診者から聞いています。がんの早期発見が死なない方法であることをもっと知ってもらうことが大事なことではないでしょうか。ひとつ受診者からよく聞く問題は、「検診を受ける時間がない」ということです。検診日や時間または場所など受診者の都合を重視して、たとえば休日検診や夜間検診などを考えていただければ受診率向上にもつながると考えています。

山崎 大阪がん予防検診センターでは、市町村で休日検診を行う場合がありませんが、施設では、まだ行っていません。検討すべき時期にあるかと考えています。

福永 それから、「時間がない」という問題については、市町村によって日曜検診、土曜検診をしているところもいくつか見受けられます。それ以外にも医療機関に委託して検診を実施しております。

がん検診受診率とともに精密検査の受診率の向上が大切です。検診を受けた方の中に「精密検査が必要です」といわれる方が数%おられます。大阪府では、その精密検査の受診率があまりよくない。とくに大腸がんの精密検査受診率が低い。「精密検査と言われたけど怖いからよいかへん」というような声をよく聞きます。しかし、精密検査を行って、はじめてがんを早期に発見できるわけですから、市町村の保健師の方から個別に電話をかけ、受診を勧められています。

コーディネーター がん検診受診率向上について、中山先生、医師の立場からコメントをお願いします。

がん検診は症状が出る前に

中山 遺伝子に傷ができて、これが原因でがん細胞ができます。がん細胞ができて一週間でほとんど発見することはできませんが、がん細胞の数が増えて、腫瘍としてある程度の大きさになると、「検診」を受ければ発見することがあります。ただし、この時期には症状というものはなかなか現れません。ですから、がんをもっていることは全然わからないのですが、放置しておくのがんはどんどん大きくなり、痛くなったり咳がでたりして病院に飛



コーディネーター
(財)大阪がん予防検診センター所長

黒田 知純

び込んでくることになり。この状況になってしまつと助からないことが多いのです。一方、がん検診というのは、がんができてから症状が現れるまでの間に検査を受けようということなんです。この間は比較的短い。ですから、だいたい1年後か2年後の健康と生活を守るためにがん検診を受けていただきたいと思つています。

諸外国のがん検診受診率に関しては、乳がん検診の受診率をみますと、イギリス、アメリカなどの国はもう70%以上の方が検診を受けています。日本の平均は12・4%くらいと言われており、大阪府は非常に悪くて8・6%と低い数字です。受診率を上げるためには、検診を提供する側の努力も必要ですが、受ける側の皆様にも御自身の健康に対する過信などいろいろと問題がございます。両者お互いにかんについて勉強し、大阪府における受診率をあげることができれば良いと思つています。

コーディネーター がん検診を提供する側の問題として、時間の問題の他に、費用や、広報の問題もあります。

福永 市町村が提供しているがん検診は、胃がん、大腸がん、子宮がん、乳がん、肺がんの検診です。費用については、まったく無料ですが検診をやっている市町村もあれば、自己負担をしていたり、あるいは、自己負担を減らしていただくこともございます。例えば、摂津市の場合、自己負担は胃がん検診が900円、大腸がん検診が500円、子宮がん検診が700円、乳がん検診が600円、肺がん検診はレントゲンが無料で、喀痰検査が700円です。いま申し上げました5つのがん検診を全部受けていただいても自己負担は、3,400円です。しかし、実際の費用は、22,800円ですから、このあたりを御理解いただきたいと思つています。また、検診のスケジュールは市町村の広報に必ず載っており、がんも早期に発見されると医療費はもちろん安くなります。それで完全に治ってしまえば、それこそ宝を捨てたということになると思つています。

コーディネーター 皆さん、これからは広報をしっかり読みましょう。それでは、実際がん検診現場でがんばっておられる山崎先生、中山先生からコメントをお願いします。

がん検診は信頼できる施設で

山崎 統計をみますと日本で罹患数(男女計)がもっとも多いがんは胃がんです。次が大腸がん、死亡率が一番高いのが肺がん、胃がん、大腸がんは早期に発見すると生存率が高いことが分かっております。これらのがんは早期にはほとんど症状が現れないために、検診が唯一の早期発見の手段です。もっと多くの方に検診を受けてい



ただければ死亡率は確実に減らすことができます。受診率を上げるための工夫としては、受けよつと思つた時に気軽に受診できる体制を整備されることが大切だと思います。ひとつの工夫として個別検診を導入したところでは受診率が上がっています。また、半日ですべてのがん検診と循環器検診が一度に受けられるような総合健診を行っているところはよく利用されています。そして、がん検診は提供する側の技量差が出やすい検査ですから、信頼できる精度の高い検診を提供することが重要です。しかし、なんといっても最も重要なのががん検診に関する正しい知識を啓発することです。がんが死なないために検診の効果理解されれば、少々忙しくても「がん検診だけは受けておこうか」ということになると思つています。

中山 がん検診は、100人が受診したら1000人全員を絶対に助けることができるというふうなものではないと思つています。しかし、今のがん検診は、受診しなかったら助からない方を5割あるいは、7割は助けることができますと思つています。それぐらいの力はあると思つています。そこをよく考えながら、半分でも助かる見込みがあるならば受診しておこうと考えるのが妥当な考え方だと思つています。

上ノ山 私達の指導者研修会でもがんの問題はよくとりあげられておりますが、演者の皆様のお話を聞き、がん早期発見のため、検診受診率向上の必要性を痛感しており、住民に対する啓発活動を一層頑張っていきたいと思つています。

コーディネーター がんを征圧しようとする時、やはり大切なことは相手を知ることだと思つています。すでに演者の皆様は述べられました。がんは遺伝子の病気です。皆様の細胞の中の遺伝子に傷がつくことが積み重なって起る病気です。したがって、がん征圧の主役は、がんになりにくい生活習慣を身に付け、早期発見のためのがん検診を受けられる皆様です。市町村や検診機関は皆様に色々な対策の情報や手段を提供する脇役です。最後になりましたが、本日御参集いただきまして皆様、ならびに討論に御参加いただきました皆様、深く感謝いたします。